



【我らを救う為に來られた神の御子イエスキリスト】

聖書本文: マタイの福音書2章6-11節/ 暗唱聖句: ルカの福音書2章14節

説教者: 鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日は待降節の4週目を迎えています。今週はいよいよイエスキリストの降誕に感謝しつつ、共に礼拝を捧げ祝うクリスマスの週を迎えます。イエス・キリストの降誕は偶然とか突然おとずれたものではありません。予め、神様の御計画の予言の通りに成就されたのです。

<1. 預言の通りに來られた救いの御名イエスキリスト>

イタリアの小さい町に古典的な雰囲気の良い美しい教会堂がありますが、この教会の壁には有名な絵がかかっています。旧約聖書に出てくるいろんな人物、たとえば、エレミヤ、モーセ、ダビデ、イザヤのような人々の顔が一つの方向に向いている絵です。ところが、その向かい側の壁にはイエスキリストの絵がかかっています。これらの絵は、旧約聖書に出てくるすべての人物がただ一人、救い主メシヤとして來られるイエスキリストの出現を待ち望んでいたということを証言しています。

旧約聖書の中イザヤ預言者はイエス様のお生まれの前、B.C.759年にイエスキリストの降誕について予言していました。処女がみごもって、男の子を産みます。その子は全世界を治め、救うために苦難をせおっているのを予言しました。それが先週のメッセージの御言葉箇所だったイザヤ書7章14節と9章6-7節です。

「14:それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」/9:6ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。:7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」

何とすばらしい方でしょうか。その肩には永遠の主権があります。これはこの子が宇宙を治め、世界と民族と人類の歴史を治める力をもっておられる方が、実際人類の歴史の中で來られたのです。その方は預言の通り、お生まれになった神の御子イエスキリストです。

マタイの福音書1章21節「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方が、ご自分の民をその罪からお救いになるのです。」、マタイの福音書1章23節「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。」

イエス様が処女マリヤにみごもられたその夜、御使いが現れたこの御言葉を伝えました。

ルカの福音書1章31-33節、「見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。32その子は大きいなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。33彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

そして、御使いは野原の羊飼いたちに現れてこう言われました。

ルカの福音書2章10-11節「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。きょうダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」使徒ヨハネはイエスキリストと出会ってこう告白しました。

ヨハネの福音書1章18節「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」イエス様がよみがえられた後、天に昇られる直前弟子たちを集め、与えられた言葉の中にこれがあります。

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、すべての権威が与えられています。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。(マタイの福音書28章18、20節)」來られたメシヤイエスキリストは天と地のすべての権威をもっておられ、迎え入れ、受け入れる全ての者といつまでも共におられる神様であられる方です。

その肩には世界を治める力のある、その方はみどりごとして來られました。もし、その方がつるぎを持って、力と武力(ぶりよく)で巨大な軍事を連れて來られたのであれば、だれもが彼に近づくことは出来たでしょうか。しかし、イエス様はあのエルサレムのお城でもなく、人間世界の宮殿でもありませんでした。ベツレヘムと言う小さい町の馬小屋で生まれました。これは確かに逆説ですね。金持ちでも、貧しいものでも、だれでもその方に訪ねるように、一番低いところで、みどりごとして來られました。

なぜ來られたのでしょうか。罪の中にいるすべての人々を救う為でした！**マタイの福音書1章21節「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」**

ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

<2. 我らのため來られた救い主イエスキリストに対する反応>

しかし、それにもかかわらず、イエスを迎える人々の姿はそれぞれでした。今日は2020年前イエスキリストがお生まれになられた時、人々はどのように反応したのでしょうか。

①無関心の人々がいました。旧約の預言者らは特にイザヤを通して、イエス様のお生まれの前、B.C.759年前からメシヤが來ると予言され、時が満ちてついにメシヤがお生まれになりました。ところが、多くの人々は関心がありませんでした。**天の御使いた**

ちさえ現われ、メシアの降誕を直接知らせ(ルカの福音書2章10-11節)しましたが、野原の小数の羊回たちだけがそのメッセージを聞き、直接お生まれになったイエスキリストの御前でひれ伏し迎えられました。キリストの降誕を具体的に示した大きな星も神は現して下さったのですが、東方の博士たちのような一部だけがその星に従ってベツレヘムまで来て直接イエスキリストを拝見し、迎えることができたのです。実際他の多くのイスラエルの民たちは神と神の御言葉を信じていると言いながら、定義的に聖書を読み、神に礼拝を聖殿で捧げていた人々でした。旧約の聖書を通してずっと救い主が来られる預言を聞き、期待感を持ちながらも、実際メシアが自分達の時代に、それとも自分たちが住んでいるところに、まさか来られるとは思ってもなかったようです。聖書の御ことばが成就されイエスがこの地に生まれたのにもかわらず、自分と何の関係があるのかのような姿でした。少しも御言葉通り信じ、心からメシアを望んでいたならば、いくらでも直接お生まれになったメシヤイエスキリストを拝見出来る祝福のチャンスが特別に彼らに与えられたのにも関わらず、多くの人たちは全然関心がありませんでした！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ そのような無関心な姿は当時も、今も今日も同じではないでしょうか。クリスマスが近づいて来てもイエスキリストには全然関心がなく、ただクリスマスの日を楽しもうとするだけです。我々のために救い主が来られたのにも関わらず、代わりに物がまるでクリスマスの主人公かのようにそちらに関心を持っている人たちが多いのです。神様からの最高のクリスマスのプレゼントとして、罪から赦され、解放される道、それで人類に神の救いを得られるように、御子イエスキリストを我らに与えて下さったのにも関わらず、真剣に心を向けられませんでした。すでに、我らの為に、神の御子が与えられたのにも関わらず、後回しにしたり、今も違うところで真の神を捜し求めている大勢の人々が今もいます。

みなさん、イエスキリストの御誕の意味は何ですか。有名なドイツの神学者だったカールバルトはこう言いました。御誕の意味は、「神はいと高き所におられ、人間はあまりにも低いところにいる、神の時間は永遠であって、人間の時間は有限であるがゆえ、神と人間は交わることができなかったため、神はみずから、人間の姿でこの地に来られたのだ。神がすべての人を救うためくだって来られ人を愛され、友となられたのです。これがまさにイエスキリストの御誕の意味である」と申しました。それにもかかわらず、人々はその意味も知らず、知らないため関心もありません。人類歴史上多くの人々が真剣に聖書を読んで見れば、だれでも神の御子イエスキリストがどなたなのか、なぜこの世に来られたのか、そのイエスキリストを今もなお迎える事が出来る方法、本当の救いの道を知ることが出来るのにも関わらず、神の御言葉なる聖書が、単なる小説かのように、西洋のある宗教の古い本の一冊にすぎぐらいで思い込んで、まったく関心を持つとしないため、今も救い主を心に迎え入れることも、神の救いを頂くこともできないのではありませんか。

みなさんも既にご存知のように、クリスマスは単なる西洋の年末祭りみたいな大騒ぎのフェスティバルではありません。メリーは「喜んで」意味で、クリスマスの意味はクリス(キリスト)+マス(礼拝:拝する)、X-mas の X もギリシャ語で「クリストス(Xristos:キリスト)」の意味であるので、この世に我々を救う為にお生まれになったイエスキリストを喜んで礼拝する日であるのです。しかし、今日はクリスマスの真の主人公なるイエスキリストなのに、世の人々はイエスキリストより、コカコーラが1930年代ヘドン・サンドブロム(Haddon Sundblom)がデザインし、書き出した今のサンタクロースにもっと興奮し、人気を浴びて来ながら、いつの間にか世間の人々はイエスキリストにほとんど無関心ではないでしょうか。

実際イエスキリストがお生まれになったその時から、2千年以上が経っていても、今日も不思議にイエスキリストを知らない人たちが多く、無関心であることはとても残念だといわざるを得ません。なぜでしょうか。まだ知らないからではありませんか。知らなければ信じることもできず、結局キリストによる罪赦しも、神の真の救いを受ける事も出来ません。当時少数の人々だけがこの地に来られたイエスをそのように無関心の中から迎えました。こんにちも同じです。毎年クリスマスが近づいてもクリスマスの真の主人公であるイエスキリストよりも、自分の事で、この世の他の事で心が向いています。

今年はコロナ禍の為、例年と違ったとても自粛しながら、静かなクリスマスを迎えられますが、だからこそ、静まって、我らを救うために来られた真のクリスマスの真の主人公であられる神の御子イエスキリストに心を向けさせ、与えて下さった神の御救いに感謝し、賛美しつつ心から礼拝を捧げるべきではありませんか。我々は人類の救い主イエスキリストがお生まれになった世の初のクリスマスの時、イスラエルの小さなベツレヘムの町で実際救い主を迎えながら、礼拝を捧げた人たちと同じように、2000年経て今日も、日本で我らが同じく心と信仰を持って共に我らの救い主の御前でクリスマスを祝い、感謝を持って礼拝を捧げられること自体は、どれほど、驚くべきほどの神の奇蹟であり、我らに与えられている神の特別な恵みでしょうか。

そして、我々だけではなく、いまだにもまだ自分を救う為、すでに来られた救い主イエスキリストを知らず、無関心の中にいる多くの人々に、世の真のGOOD NEW(福音)であられる！あなたの為に来られた救い主イエスキリストの良い知らせを分かち合い、伝える尊い使命が与えられていることも共に覚えて頂きたいと願います。まだ我らの周りにクリスマスの真の意味を知らなくて、イ

エスキリストに無関心な方々、一人にも声かけてキリストの恵みと救いを分かち合い、神の平和を共に体験し頂ける今年のクリスマスとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福を祈ります。

②メシアの御誕を知識でしか知らなかった人々もいました。当時宗教指導者たちがここに含まれます。彼らは一生涯旧約の預言書を研究し、民に教えたり、暗記までもしていました。いつかはこの地に神の御子なるメシアが予言の通り、お生まれになるのだと頭で知識的にしか知らなかったので、御子を受け入れることが出来ませんでした！もちろん、我々が正しくキリストを信じるためには聖書の学びも、知識もとても大切で、要りますが、よく考えて見ると、信じることと知っていることは全然違う話です。厳密に言いますと、信じているから知っていることも含まれ可能ですが、知っている事は信じなくても全然可能なことではないでしょうか。イエス様が生まれた時もメシアがお生まれになることはイスラエルの民は頭ではみんな聞いて知ってはいました。

今日にも、多くの人々はイエスキリストが実際お生まれになられた方であることも、とても素晴らしい方であることも知っていますが、信じ、受け入れようとしません。知っていることは自分の頭で、理性で理解出来る、計算出来るので、別に信じる信仰は入りません。言い換えると、信じなくても今までたくさん聞いたので、自分の頭や知識の領域で理解出来るのです。しかし、聖書では信仰が先である事を教えて下さっています。神の御子イエスキリストを自分の救い主として受け入れなければ、神の救いは決して与えられません！

聖書では明確にイエスキリストを信じることによる神の救いをよく強調しつつ、教えて下さっています。

ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書3章18節「御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の御名を信じたからである。」

ヨハネの福音書5章24節「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。」

ヨハネの福音書7章38節「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

ローマ人への手紙1章16節「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」

ローマ人への手紙3章22節「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰によって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別もありません。」

ヨハネの手紙第一5章13節「神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。」

なぜ信じる事が大切でしょうか。一の頭と知識の次元では聖書の初めのページである創世記1章1節すら、人の頭では到底理解出来ないものだからです。不思議なのは、神の御言葉として信仰をもって聖書を読むと、聖書の66冊全てが理解出来るなるものが聖書であります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ですから、信仰は頭でとどまっては決していけません。頭の信仰になってしまうと、むしろ、イエス様の時代の宗教指導者たちのように、ますます高ぶりになりやすく、心が頑なになりがちで、人をさばく者になってしまうことを教訓として忘れてはいけません！

信仰は心から受け止めることであり、手足と行いにならなければなりません。聖書にはいざ、メシヤがお生まれになる御誕に関しての聖書の知識はだれよりもたくさん持って教えていた宗教指導者たちでした。口には神を一番偉く信じているように自称自分達の信仰を褒めていながらも、心から遠く離れ、心から信じることはしなかったのではありませんか。そして、自分たちの頭の中で、聖書と違ったメシヤの形を作り上げ信じ込んでいました。つまり、力強い政治家であり、強い軍士力でローマ帝国をやぶり、イスラエルを独立してくれる力強い王様を待ち望んでいたわけでありました。ついに、旧約の聖書の預言の通り、御子イエスキリストが来られたのにも関わらず、自分達の頭と知識の基準と高慢が結局、来られた救い主イエスキリストを拒み、後には、十字架にまで殺すまで、罪を犯してしまった者に陥ってしまいました。

マタイの福音書23章25節、「わざわざ。偽善の律法学者、パリサイ人。あなたがたは、杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪(ごうよく)と放縦(ほうじゅう)で満ちている。」

みなさんは彼らの姿を見ていかがでしょうか。我々もそのように偏らないように、一の小さな頭で神を全部理解して信じようとする過ちを犯さない気をつけましょう。今日もイエスキリストを信じますと言いながら、自分の頭と知識の領域の中で神を信じようとしないうちに気をつけましょう。実は、神の前で正直で謙遜な者こそ、人の頭や理性、知識ですべて理解出来ないことを認めます。自分の限界と弱さをよく認めるため、神の御言葉通り、神の赦しを、御救いを、自分の頭で、知識として理解しようとする自体が無理であることをよく認められます。

イエスキリストは知ることで、知的な満足やその素晴らしさに感動を受けたり、感心することは出来ても、その人の人生はまったく変わりません。御子イエスキリストを受け入れ、信じることによって、神の真の力を体験することが出来、人生が変わり始めます！ イエス様は“あなたの信仰があなたを救ったのだ。”、“あなたの信仰のとおりになれ”と言われました。キリスト者は一生神の御言葉なる聖書を通して神について深く学び、知っていく必要がありますが、知識が人の罪を赦すことも、救うことも決してできないことを覚えておきたいと願います。

イエスキリストが来られた当時、祭司や長老たち、パリサイ人たち、学者たち、書記たちのような宗教指導者たちは聖書の知識はだれよりも、豊富(ほうふ)でした。厳密に、彼らはメシヤが生まれる場所も、メシヤが来られる事も、どのような姿で来られることさえも聖書の記録どおりに知っていても、心から信じてはいなかった為、彼の人生は結局罪の中のままで、イエスキリストを迎え入れることが最後まで出来ず、神の救いを頂くことが許されませんでした。

我らの為に、神の御子、救い主なるイエスキリストがお生まれ、来られた理由は、

全ての人々がメシヤを心に迎え入れ、信じて、神の救いを得させるためであることを、ともに覚えておきましょう。

もう一度我らの為に来られたイエスキリストの御前で謙遜に謙り、みんな共に、改めて、心からイエスキリストを迎え入れましょう。

コロナ禍で大変だった今年を後にし、残りの時間だけでも頭ではなく、心からイエスキリストを迎え入れ、生きておられ、共におられるキリストイエスにあって新たな新年を迎えられますように切にお祈り申し上げます。アーメン！！

③迫害する人もいました。 イエス様がお生まれになるのを極力反対し、妨げようとする人も当時いました。当時イスラエルの王はヘロデ王でした。今日の本文で東方の博士らが遠い所から歩いてイスラエルのヘロデの宮殿に訪ねて来ました。ヘロデ王に“ここに王がお生まれになったと聞きましたが、ご存知でしょうか。”と問います。東方の博士らは御使いから神の子がお生まれになったという知らせを聞いてここまでやって来ました。彼らはきっと神の子がお生まれになったのなら、宮廷(きゅうてい)ではないのか’と思い、ためらわず、直接王宮にまで訪ねたと思いますが、ヘロデ王は初耳でした。むしろ、この地に王がお生まれになったことにさらに驚き戸惑っていました。なぜだったのでしょうか。自分が握って味わって来ているこの政治の権力、王の立場がヘロデ王自分にとってはまるで神のようなものなのに、お生まれになる方に奪われてしまうのではないか、町の人々が動揺(どうよう)してしまうのではないかと不安になってしまったからです。

彼には人の上に立って人を動かせるこの王座が彼には命のようなものだったと思います。もしかして、自分の王座が取られるかも知れない事に恐れました。ヘロデ王はメシヤ、救い主が自分に大切な物を奪われそうにしか考えられなかったようです。自分の権力と立場を守る事なら、人を殺しても構わないほど必死でした。ヘロデ王は自分だけのために生きていたため愛と平和の王として来られた救い主のイエス様さえも自分の敵だと思い込み殺そうとしたのです。

ヘロデ王は王がお生まれになったという知らせに、自分の王座を守る為に、ベツレヘム内の二歳以下の男の赤ちゃんを全部殺すように命じてしまいました(マタイの福音書2章16節)。その時、夢で天使がヨセフに現われ、急いで身を引くようにと啓示されたので、みどり子イエスは災いをまぬかれる事になりました。イスラエルの有名な歴史家であったヨセプスによると、後、このヘロデ王は自分の息子まで殺し、七日目に腸がくさって苦しく死んでしまったと記録しています。自分が神のように握っていたものだけが全てかのように生きた人の結末はまさしく虚しく、哀れで、悲惨であることが当時ヘロデ王をとして分かります。

人類の歴史上ヘロデ王のように自分の権力、立場を守るためなら、どんな方法でも関係なく、ふるまっている人々もいるのではありませんか。御子イエスキリストを迎えるために、みなさんにはまるで神のように、これこそ自分の全てかのように思い込んでいるものはないでしょうか。御子イエスキリストを迎え入れ、受け入れる為に、まるで、神かのように自分の全てかのように握りしめている物を主の前に手放す必要があるかも知れません。

④救い主を心から迎え入れ、信じていた東方の博士らがいました。 マタイの福音書2章を見ると東方の博士らは人類の平和の王の王であられるイエスの御誕を知らせる星の動きにしたがってベツレヘムまで来て直接礼拝し、拝見することができました。彼らを注目して見る必要があります。彼らは天文学者であり、科学者だったのにもかかわらず、空と星を研究しているうちに神と神の御言葉を知り、信じて、救い主メシヤの到来を待ち望んでいた素晴らしい信仰の人々でした。ベツレヘムに待ち望んでいたメシヤが生まれたのにもかかわらず、あまりその素晴らしい事実に関心がありませんでした。ヘロデ王も、一生涯を旧約の預言書を研究していた祭司長たちや宗教指導者たちでさえも知りませんでした。自分の宿(やど)で神様の子がお生まれになったのにもかかわらず、宿屋(やどや)の主人さえも知りませんでした。

しかし、そのメシヤの誕生を知って訪ねて来た人々は意外と遠くに住んでいる東方の博士たちでした。

ここで東方というのは当時ペルシアの地方だと推測する学者たちが多いです。今日で言うとイラン、イラクの近東のところ。そこからエルサレムまでははるかに遠い道だったでしょう。しかし、彼らは山を越え、川を渡って、ただ、ひたすらこの地に来られたメシヤなるイエスキリストに一度だけでも良いから、直接拝見するため、はるばる遠くから来たのです。

それに手ぶらで来ましたか。みどりごに礼拝をささげながら'黄金、乳香、没薬'をささげました。もともと神を信じていたイスラエルの民でもなかった彼らがこの世に来られたメシヤに直接拝見することができました。お言葉に従ったマリヤも、羊飼いたちも主に拝見することが許されました。普通の祝福ではありません。当時の聖書学者や宗教指導者たち、ヘロデ王も、エルサレムの町人たちも無関心の中で直接メシヤの御誕を迎えることも出来なかったのに、遠い東方の博士らは謙遜に、救い主メシヤなるキリストを自分に必要とし、心から待ち望み、迎え入れることが出来ました。

<3. 適用>

①御言葉の通りに信じ従って行く信仰を保つ。彼らは不思議な星を見た時その星がメシヤの誕生を示す聖書の預言(民数記24:17「私には彼が見える。しかし今のことではない。私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。ヤコブから一つの星が進み出る。」)の成就だと信じて御誕を拝見しました。我々も神様の御言葉をそのまま信じ、イエス・キリストがこの世の救い主であることを信じて、ご誕を迎えなければなりません。そして東方の博士らはみどりごに拝見した後も御使いの指示に従いました。御使いが彼らにヘロデ王に会わないで、他の道で帰りなさい。と言われた時、博士らは最後まで神様のお言葉に従いました。もう一度私たちも神の御言葉に純粹に信じ最後まで従う姿勢！イエスキリストを迎えながら、共に保って歩みましょう。東方の博士らはメシヤの誕生を悟り、そのメシヤに礼拝するために遠いところであっても、どんな犠牲を払ってもベツレヘムにまで来て御子イエスキリストに礼拝をささげる事を人生の最優先にしていました。ただ御言葉を読んで、知っているだけではなく、その御言葉を悟り、その通りにどんな犠牲を払っても従う決心をしましょう。そのように神の御言葉は信じるだけではなく、従って実践し、行う時に神の約束された祝福を實際体験することが出来ます。

②捧げ、分け与えるキリスト者の生き方を保つ。東方の博士らは自分たちの大切なものを感謝と喜びをもってみどりごに礼拝を捧げる時に、心から備えささげました。マタイの福音書2章11節以下「宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。」歴代誌第一16章29節に「御名の栄光を主に帰せよ。ささげ物を携(たずさ)えて、御前に来たれ。聖なる装(よそお)いをして、主にひれ伏せ。」この御言葉にしたがったのです。愛するみなさん！実にクリスマスは神様が我々を愛したゆえに、惜しみなくそのひとり子イエスを贈り物としてくださった日です。ですから、我々もイエス様のようにクリスマスを何か自分がもらう日としてではなく、主のため喜んで捧げ、キリストの愛を持って分け与える日として迎え過ごすべきではないかと思います。

東方の博士らがイエスキリストに捧げた物には実は深い意味あります。

黄金はイエス様がこの地を治める'王'であることを象徴します。当時の黄金は王権を表わします。ですから東方の博士らはこの地に'人類を救う王'として来られたイエス様に王権を象徴する黄金を贈り物としてささげたのです。そして乳香(にゅうこう)は祭司が神にいけにえを捧げる時に使われた物であって、イエス様が我々を罪のためにとりなしをして下さる永遠の'大祭司'であられることを象徴した物であり、没薬は遺体保存のために使われた物であって、人類の罪を背負い、十字架の上でとげの冠をかぶり、両手と両足にくぎを打たれ、贖いとなって死なれることをすでに察して没薬をささげたのです。そういうわけですから、彼らがささげる贈り物にはとても意味深く、象徴的な意味があったのです。

クリスマスの礼拝にみなさんは何をメシヤに捧げようとしていらっしゃるでしょうか。

主が今日も我らに望んでおられるのは、お金や高価な物ではありません。あなたの救い主としてのふさわしい信仰です！まだ、救い主を受け入れてない方々には、迎え入れ、ふさわしく信じる信じる決断の心を喜ばれるでしょう。すでに受け入れ信じている者たちには、我らの心と身を神の栄光を現すものとして神に委ね、捧げるその献身を喜ばれ望んでおられるのではありませんか。

<結論：謙遜に来られた救い主イエスキリスト！>

愛する信仰の家族のみなさん！メシヤなるイエス様はお生まれになられた場所はどこでしたか。馬小屋の飼葉おけでお生まれになりました(ルカ2:7)。「男子の初子(ういご)を産んだ。それで、その子を布にくるんで飼葉桶(かいばおけ)に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」これはイエス様の生涯をよく表しています。栄光に満ちた天の御国から汚れた世に来られましたが、派手な宮廷ではなく、金持ちの華麗なる邸宅(ていたく)を選ばず、貧しいヨセフの家庭を選び、誕生は飼葉おけでした。イエス様の生涯は謙遜そのものでした。イエス様の生涯は卑(いや)しまれる貧しい人たち、罪人たち、孤児や未亡人、病人の友となって下さいました。イエス様は小さい町であるベツレヘムに来られました。

「ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。(マタイ2:6)」神の子は聖なる地であるエルサレムに来られませんでした。権力の都市であるローマに来られませんでした。文化の都市であるアテネでもありません。

イエス様はユダの町の中で、小さい町であるベツレヘムに来られました。つまり、イエス様はご自分を世の中一番低くところに来られました。一番謙遜な姿を取り、へりくだった者として、だれでも出会えるような姿で来られたのです。イエス様がこの地に来られたのは神様の愛と謙遜の最高の極致(きよくち)でした。その主の御前で謙遜に自分を低くさせへりくだる者たちに主は今も共におられます。願わくは、キリストの御誕を迎える今週、インマヌエルの救い主イエスキリストがクリスマンプレイズチャーチのみなさんと共におられ、イエスキリストのある神の豊かな愛と救いの恵みを豊かに

注いで下さいますように主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！

